



昨年から「潤沼をラムサール条約湿地登録へ」ということで、潤沼が大変関心を持たれています。条約では水鳥の生息地としての意義が第一ですが、今月は潤沼に生えている絶滅危惧植物のオオクグを紹介いたします。潤沼に関心を持っていただければ嬉しいですね。

▼オオクグとは

オオクグはカヤツリグサ科の多年草です。きれいな花を着け、人の生活に直接役に立っている植物ではありませんので、見過ごされている場合が多いと思います。

国内では北海道、本州、九州（北部）に、国外では朝鮮、中国、ウズベキスタンに知られています。生育地は海岸に近く、海水の出入りのある河口や入り

里山に育む生きものたち

35 オオクグ (カヤツリグサ目 カヤツリグサ科)

学名 *Carex rugulosa* Kuek.

写真・文 / 安 昌美

江、湖などの汽水域の湿地です。時に海岸近くの休耕田に見られることもあります。このように生育地が限られている上に、海岸の開発や土地の造成、湿地の遷移などにより全国的に生育地が少なくなりました。

茨城県では日立市、茨城町、旧神栖町、旧波崎町、旧桜川村の記録があります。

潤沼の湖岸では茨城町、旧旭村、大洗町で確認されていますが、各生育地は狭く、個体数も少ないです。写真は昨年6月の中石崎湖岸のもので、シオクグに混じって生育していましたが、個体数も少なく、この年だけなのか、結実状態も悪いです。

草丈は50〜70cm。花期は4〜5月とされ、茎の上部に雄花が集まった穂が、

下部には雌花が集まった穂が2〜5個つきます。風媒花で、種子は水によつて散布されます。集団が小さくなりやすくと遺伝的な変異が小さくなり、生存に不利になる場合が多いのです。栄養繁殖（※）もしていますが、少し心配な状況です。

※栄養繁殖：根・茎・葉などの栄養器官から、次の世代の植物が繁殖する無性生殖のこと。

▼絶滅危惧種のオオクグ

全国的に生育環境も悪化し、生育地も少ないということで、2000年の環境庁版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）にされています。その後2008年には準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種）となり、少し危険性は少なくなりました。それでも、河川改修、護岸工事や遊歩道・散策路の建設などでは十分に絶滅危惧種のことを考えて工事などを行ってほしいものです。

茨城県では1997年版は絶滅危惧種でしたが、2012版では絶滅危惧ⅠB類となり、危険性が増大しています。2011年の大震災後については、他の県内の生育地はどうなっているかまだ見ていませんが、生育地が海岸部であるだけに気になります。潤沼でもっと生育地や個体数が増加してほしいと願っています。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年1月31日現在)
◆総人口 33,690人 (-84)、男 16,825人 (-72)、女 16,865人 (-12) ◆世帯数 12,581世帯 (-57)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています